

あなたの ルーツを心に!



Forever Friendship with God!!

永遠の友情の発見

混迷の世紀末、大世紀末を迎え

いよいよ新しい世紀、新しい千年期に向けてのカウントダウンが始まった

いま 来るべき未来に向けて私たちに希望はあるのか
揺るぎのない希望

それは変わることのない永遠の神と友情を結ぶことにある

愛の神は 今もあなたを愛し、あなたを求め

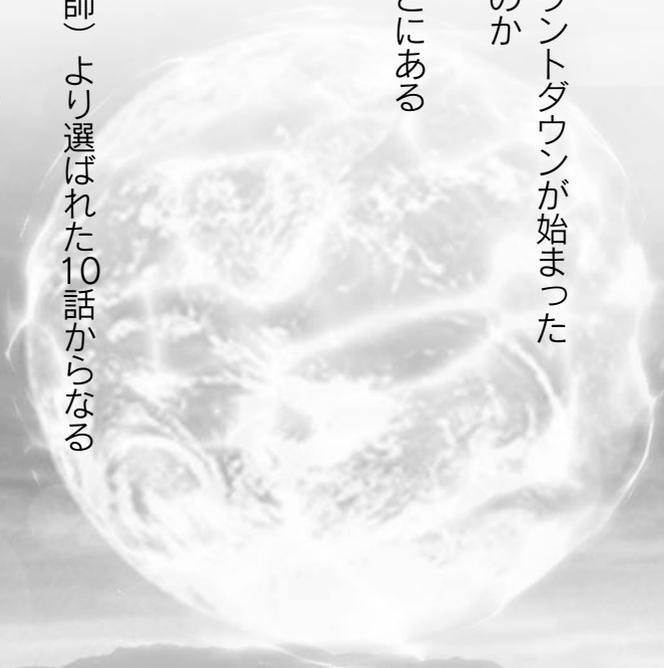
友情の手を差し伸べておられる

このカウントダウンシリーズは

一九九八年全世界に向けて放映された

ネット98セミナー（講師ドウワイト・ネルソン牧師）より選ばれた10話からなる
本シリーズを通して、

読者が神との永遠の友情を結ばれることを心より祈るものである



あなたの ルーツを心に!

本シリーズの六話『ダーウィンのブラック・ボックス』の内容を覚えておられるでしょうか？ 分子生化学者マイケル・

ビーヒが、ネズミ取り器という単純な発明品を用いて、すべての複雑な生命体は進化によってできたものだとするダーウィンの仮説を論破した、というお話でした。

ビーヒは、複雑な命のシステムは最初から完全に組み立てられ、作動しなければならず、そこには知的な計画性があるはずだ、と主張したのです。つまり

人間が生み出した最も正確な時計

オーストラリア生まれの天文学者ガーンロット・ウインクラー

博士は、四半世紀以上もの間、

彼の主張は、知的立案者（神）が存在すると記している聖書の科学的裏づけなのです。

しかし今回もう一度、「ダーウィンの進化論」対「聖書の創造論」の論争へ読者のみなさんをお招きし、私は別の発明品をご紹介しますと思います。今回のものは、ネズミ取り器よりずっと古く、ずっと深遠でありながら、はるかにシンプルなものです。この発明品を注意深く探ることによって、みなさんはいずれの論が正しいかを必ず納得されるでしょう。

アメリカの正式な時間記録員として働いてきた人です。彼の事務所は国立海軍天文台にあり、

そこには日時計、砂時計、振り子時計など、さまざまな時計が所狭しと置かれています。しかし、その中でも最高の逸品は原子時計です。この時計は二四個の金属製の箱型器械からできており、温度調節された八つの貴重品保管室に納められています。そしてこれらの保管室は、丘陵地にある天文台の周囲の用地に散在しているのです。

文字盤のないこれらの時計には、それぞれセシウム原子が入れられています。このセシウム原子は、沸点まで熱せられるとかすかな光線を放射するのですが、その光線の振動周期は不変のもので、一秒間に九一億九二六三万一一七七〇サイクル。そしてコンピュータが、一時間ごと



を読み取り、ナノセコンド、つまり一秒の十億分の一以上の誤差がない一致した時間を毎日算

出しているのです。

さらに、ウインクラ―博士はすべての時計をセツトするため、イタリアからハワイに至る、電波天文学者たちのネットワークを頼りにしています。これらの電波天文学者たちが、数百万光年離れた星から届く光で同時に各自の位置を確認することによって、地球の正確な位置を決めているからです。みなさん、信じられますか？ ウインクラ―博士が時間を発明したという

信仰によって信じているのです

もう一度創世記に戻り、地球上で最初に時間がどのように測定されたかを確認してみます。

「神はお造りになったすべてものを御覧になった。見よ、

わけではありませんが、人間の生み出した最も正確な方法で、彼は時を告げる働きをしているのです。

しかしながら、私が今回お話しする深遠な発明品とは、この原子時計ではありません。ただし、大いに「時間」と関係があります。それではいまから、科学者も、哲学者も、歴史家も、十分な説明をすることができないほど奥深い一つの発明品についてご説明しましょう。

それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった。第六の日である。天地万物は完成された。

第七の日に、神は御自分の仕事を離れ、安息なされた。こ

あなたの ルーツを心に!

の日に神はすべての創造の仕事
を離れ、安息なさったので、
第七の日は神は祝福し、聖別さ
れた。これが天地創造の由来で
ある」(創世記一章三―二章
四節)

地球における初めての一週間
が、どのようにして終わったか
の物語です。創世記の記事はは
つきりと述べています。神はこ
の世界を六日間で造り、第七日
目は休まれた、と。

もちろん、これでは、神がこ
の地球を創造されたという何の
証明にもなりません。少なくとも
も懐疑論者や無神論者にとつて
は、そうでしょう。「神がこの
世界をお造りになったとどうし
て信じることができるのです
か?」と問われたなら、私は次
の聖句を用いて答えます。

「信仰とは、望んでいる事柄
を確信し、見えない事実を確認
することです。昔の人たちは、
この信仰のゆえに神に認められ
ました。信仰によって、わたし
たちは、この世界が神の言葉に
よって創造され、従って見える
ものは、目に見えているものか
らできたのではないことが分か
るのです」(ヘブライ人への手
紙一章一―三節)

すなわち、「信仰によって、
私は信じます」というのが私の

どちらの理論を信じますか?

ご存知のように、物事の起源
に関する理論には、必ず共通の
根本的な問題があります。それ
は第一原因、つまり、そもそも
すべてがどのようにして始まっ

答えです。結局、最終的には、
信仰によって聖書の創造論を受
け入れなければならぬのです。
これが、創造神を信じる私たち
の信仰を支持する唯一の答えな
のです!

しかし、「信仰によって」と
いう答えが、進化論者によつて
一笑に付されることをみなさん
が心配なさらないように、彼ら
との対話の際に役立ついくつか
のことを次にお話ししておきま
しょう。

たのかという大問題です。なぜ
なら、だれ一人として第一原因
を見ていないからです。それゆ
え、起源に関するあらゆる理論
の中の究極の起源は、常に科学

的実証の領域外にあるのです。言い換えれば、起源に関するすべての理論は、人間の信仰を含んだものにならざるを得ない、というわけです。

この点をもう少し説明しましょう。進化論者たちは、ポリマー（重合体）あるいは細胞の起源を、成り行き任せの過程によつて十分に説明することができません。つまり、生命を構成する材料がいかにして存在するようになったかについて、十分な説明ができません。

実際、これらの生化学的重合体が進化してでき上がったという見込み（可能性）は、どんなに無理をしても受け入れようがありません。科学者たちは、最も単純な生命が地球上で二〇億年の間に自然の過程を経て発生

する確率は、一〇の二五五乗分の一より小さい、と述べています。四〇億年かかって、典型的な小さなたんばく質の合成を左右する一個のDNA分子を産出する可能性さえ、一〇の五三五乗分の一より小さいのです。ところで統計学においては、一〇の五〇乗分の一より低い確率は、可能性の境界線を越えるもの、つまり不可能なもの（こと）と見なされています。

つまり私は、「創造論を信じるには、信仰が必要ではないか」と批判する進化論者に対して、こう答えたのです。「そうなのです。不可能な事柄を信じるために、大きな信仰が進化論者に必要とされるように、私たちにも信仰が必要なんですよ」と……。

*ポリマー 単一の生化学構造を持ったモノマー（例えば、糖、アミノ酸、脂肪酸など）がいくつも、ときには何千も、一緒になつてでき上がっている生化学的重合体のこと。例えば、でんぶん、たんばく質、脂肪など。

結局のところ、すべての人間は、起源に関するどちらかの理論に自分の信仰を置かなければならない、ということなのです。知的な創造主のみ手の中から自分分は生まれたのか、それとも野生の猿から進化してきたのか、という選択です。

優秀な法律家フィリップ・ジョンソンは、次のように書いています。

「頭脳で作られた理論は、理論を作り出した頭脳を十分に説

明することはできない。絶対的
真理を発見する偉大な科学的頭

脳の物語は、頭脳そのものが与えられたものであることを受け入れる限り、満足できるものがある。われわれが、頭脳を、自らの発見で作り上げたものとして説明しようとするならば、われわれは、出口のない鏡の広間にいることになるのである」

コンピュータは、コンピュータを生み出した人間の頭脳の複雑な知性を説明できるでしょうか。同じように、人間の頭脳によつて考え出された進化論が、どうして最初に理論を考え出した頭脳を十分に説明できるのでしょうか。

十戒の中のちようつがい

再び、神の偉大な十戒の中心に立ち返つてみましょう。ここに、科学者も、哲学者も、そして歴史家も、十分に説明できない深遠で、それでいてシンプルな発明品を見いだすことができます。

アンドリュース大学の旧約聖書学の教授であるジャック・ドゥカーンは、「第四条の掟は、

十戒全体の主題的なちようつがいの役割を果たしている」と言っています。最初の三つの掟は神と人間との関係を、後半の六つの掟は人間同士の関係を述べています。そしてその中間に、神と人間とのちようつがいとして、神と人間、人間同士の関係を両方とも述べている安息日の掟があるのです。これが、第四



条の主題的なちょうつがい役
割です。

ところで、みなさんはモーセが十戒を受け取ったときの光景に関する記事をお読みになったことがありますか？

「主はシナイ山でモーセと語り終えられたとき、二枚の掟の板、すなわち、神の指で記された石の板をモーセにお授けになった」(出エジプト記三二章一八節)

出エジプト記で明らかなのは、神が自らの指でこの十戒を二枚の石の板に記されたということです。

もう一度、第四条を読みましょう。

「安息日を心に留め、これを聖別せよ。六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もし

てはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたから、主は安息日を祝福して聖別されたのである」(出エジプト記二〇章八―一八節)

ドウカーン教授は、十戒のうち二つの掟(第四条と第五条)だけが「肯定型」であることに注目するように、と述べています。つまり、この二つの掟だけが「くしてはならない」という否定的禁止文ではないのです。この二つの掟は、意味深いことに、十戒の中心部分に、しかもちょうつがいの部分に並置されているのです。

あなたの ルーツを心に!

この二つの掟が関連して置かれていることは、両者に共通項があることを示しています。第

四条「安息日を心に留めよ」と

第五条「あなたの父母を敬え」

に、何が共通しているのでしょうか？ 両者はともに、人間としての私たちの起源、つまりルーツを心に留めよ、という呼びかけなのです。

第四条は、神の創造のわざの中に私たちの起源があることを心に留めよ、という呼びかけで

神秘的な七日という周期

ところで、今回私がみなさん

にご紹介したいと思っっているすばらしい発明品は、出エジプト

記二〇章一節にあります。そ

れは「週」という時間の単位な

あり、第五条は、両親の子供を

もうけるわざの中に私たちのル

ーツがあることを心に留めよ、

という呼びかけなのです。

(1) あなたを創造して下さったあなたの神の安息日を心に留めなさい。

(2) あなたを産んで下さった父母を敬いなさい。

神の愛の律法、十戒の中央に位置するこの二つの掟は、人間の起源に関する真理を保護するために与えられたものなのです。

のです！

みなさんは、七日間からなる

週が存在することについて、創

世記の記録以外、歴史的にも、

天文学的にも、何の説明もでき

ないことをご存知でしょうか？

例えば、「日」という単位は地球が一回転する時間ですし、

「月」は月が地球の周りをほぼ一周する時間、「年」は地球が

太陽の周りを一周する時間です。

ところが、七日間かけてどこかを回る天体は見えていません。七日間で巡る週は、天体の

周期とは全く結びついていない

のです。では、週という単位はどこから来たのでしょうか？

この質問を、進化論者で歴史家でもあるコルゲート大学のアーベニー教授にぶつけてみましょう。『時間の帝国』という本の中で、彼はこのように語っています。

「『創世』という言葉は『起源』という意味である。……現代科学の創世は、百億年以上も

前に大爆発によって始まったもので、そこからすべてのできごとや物が生み出されたのである」

週はどのように始まったのでしょうか？

「壁かけのカレンダーのどの頁にも、西洋人が創造した時間単位のもう一つの下位区分があらわされている。七つの垂直方向に分割された部分に連続した数字が書き込まれ、すべての縦の行には、それぞれの名称がつけられている。四ないし五の水平方向の列は、週と呼ばれ「るが」、……この時間の小区分の直接の原因となるものを、太陽や月のような天体や、他の明らかな自然界の周期に見いだすことはできない。さらに多くの他の文化や伝統の中でも、それぞ

れのカレンダーには、ほとんど同じような期間の区別が記録されているのである」

要するに、アベニー教授が指摘しているのは、どのように私たちが週を持つようになったのか、また、なぜ地上のほとんどの文化や伝統の中に同じような時間の区分けがあるのか、全く説明できないということなのです。

しかし、週に関して非常に興味深いことがわかってきた、とアベニー教授は続いて次のように書いています。

「ある生物学者たちは、週は自己決定されたものだ、と信じている。と言うのは、人体の中に七日周期のバイオリズムが存在することが、年代学で最近発見されたのである。この周期は、

血圧や心拍数のわずかな変化、感染や臓器移植に対する反応などの中にあらわれている。例えば、ある臓器に対して拒絶反応が生じる可能性は、移植一週間後に頂点に達することが判明し

第七日目安息日の中に、
私たちの創造主との友情という
贈り物が包まれているのです



た」

これは驚くべきことです！ 私たちの体の中に、神秘的な七日の周期が組み込まれているというのです。しかも、これは人

間に限ったことではありません。ごく単純な生命体、バクテリアや単細胞動物までもが、同じものを分け合っているというのです。

もし安息日を
心に留めていたならば……

週という時間の区切りは、どこから来たのでしょうか？ 世界的な週七日制の制定について、私たちが持っている最も決定的

とは、私たちがカレンダーを見るたびに、「神は私たちをお造りになられた」ということを知らされているわけです。

な証拠は、世界の創造に関する古代ヘブルの記録（聖書）だけなのです。従って、一週が七日間であることと、第七日目安息日とは、創造論が人間の生命の起源についての正しい理論であることを示す確かな証拠なのだ、と断言できるのです。と言うこ

もしダーウィンが安息日をずっと心に留めていたならば、進化論を生み出すことはなかったでしょう。なぜなら、第七日目に、彼は創造主についての真理を祝っていたはずだからです。

もしカール・マルクスが安息



日をずっと心に留めていたならば、政治的無神論である共産主義を生み出すことはなかったで

しょう。なぜなら、第七日目ごと、彼も創造主についての真理を祝っていたはずだからです。もし世界が安息日を心に留めていたならば、あらゆる悲惨と流血を見なくて済んだことでしょう。なぜなら、私たちが同じ創造主なる父を信じていれば、

安息日は何曜日なのか

しかし、いろいろな疑問をいただく人はいるでしょう。例えば、「現代において、何曜日が神の定められた第七日目だと断定できるのだろうか？」という疑問です。

実に興味深いことに、現在でも一〇〇以上の国語で、週の第七目を「サバス（安息日）」と呼んでいます。つまり、人類

私たちはみな家族であることを自覚していたはずだからです。

「安息日を心に留め、これを聖別せよ」と、神は今日人類に向かつて叫んでおられます。なぜなら、第七日目安息日の中に、私たちの創造主との友情という贈り物が含まれているからです。

学分野においても、週のどの日が神によって命名された聖なる日であるかを証明できるので。さらに、宗教界の指導者たちも、聖書学者たちも、現在の土曜日が聖書の第七日目安息日であることを認めています。

「でも、カレンダーは過去に変更されたのではありませんか？」という質問も聞こえてき

あなたの ルーツを心に!

ます。

その通り。確かに変更されました。一五八二年、ユリウス暦がグレゴリー暦に変更されています。理由は、ユリウス暦が1時間につき11分の誤差を生み続けるため、太陽系と同調させるためには、10日間の埋め合わせが必要になったことです。

そこで、グレゴリー暦の一五八二年10月から10日間を削り取りました。結果として、10月4日木曜日次の日を10月15日金曜日としたのです。

ここでご注意ください。このは、日にちの連続は途切れませんが曜日連続は途切れなかったという点です。

「わかりました。でも新約聖書は、安息の日を第七日目からキリストの復活を記念して第一

日目（日曜日）に変えたのではありませんか？」と質問する人もいるでしょう。

これに対して、私はすぐに答えることができます。答えは「いいえ」です。新約聖書の

「週の初めの日」の暗い時間帯とは

ですから、六番目以降の聖句をここで見てゆきましょう。

「その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちがいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、

イエスが来て真ん中に立ち、『あなたがたに平和があるように』と言われた」（ヨハネによる福音書二〇章一九節）

ここに礼拝の新しい日が示されているでしょうか？ いい

で、第一日目について言及している箇所は八つあります。この内の五か所は、イエスが週の第一日目によりみがえられたという事実を単純に報告しているにすぎません。

え！ 弟子たちは「ユダヤ人を恐れて」集まっていたので、祝いの日どころではありませんでした。実際、彼らはキリストが復活されたことすら信じていなかったのです。

次に、七番目の聖句を見てみます。

「週の初めの日、わたしたちがパンを裂くために集まっていると、パウロは翌日出発する予定で人々に話をしたが、その話

は夜中まで続いた」（使徒言行録二〇章七節）

宗教的集会を持っているのだから、彼らは第七日目の代わりに日曜日を守っていたに違いない、などと結論を急がないでください。確かに、彼らは集会を開いていましたが、使徒言行録五章四二節によれば、使徒たちは「毎日、神殿の境内や家々で絶えず教え、メシア・イエスについて福音を告げ知らせていた」とあります。説教は、聖なる日にだけなされていたものではありませんでした。

しかし、もつと重要な点は、この集会が日曜日の朝の集会ではなかったという事実です。この集まりは、「週の初めの日」の暗い時間帯に行われていました。八節には、「わたしたちが

集まっていた階上の部屋には、たくさんのともし火がついていた」とあります。

創造の物語を思い出してください。聖書の一日は、まず暗い部分、つまり夕方から始まり、朝となつていきます。同じように、「週の初めの日」の暗い部分は、土曜日、つまり第七日目の日没後の時間を指すのです。そういうわけで、いくつかの英語訳聖書では第一日目の暗い部分を「土曜日の夜」とか「土曜日の夕方」と正しく翻訳しています。最後に、八番目の聖句を見てください。

「わたしがそちらに着いてから初めて募金が行われることのないように、週の初めの日にはいつも、各自収入に応じて、いくらかずつでも手もとに取って

置きなさい」（コリントの信徒への手紙一 一六章二節）

この聖句は礼拝の献金に関係するものだ、と言う人たちがい

あなたの創造主を礼拝しなさい。
彼の安息日を心に留めなさい。
彼の友情を求めなさい。
彼はまもなくお帰りになれる！



ます。しかし、その読み方はポイントがずれています。パウロが訴えているのは、エルサレム

の飢饉ききんの被害者のための募金を、彼がコリントに着いてから集め始めることにならないよう、前もって手元に取って用意しておきなさい、ということなのです。疑いもなく、この聖句は、日曜日に礼拝が行われていたことを示してはいません。

最大の証拠は、 イエスと弟子たちの模範

以上が、新約聖書における「週の第一日目」についての八つの聖句です。どれ一つとして、

す不動の証拠なのです。偉大な宣教師パウロが、いつ礼拝したかをご存知でしょうか？

神が十戒という永遠の律法を変えなされた、と教えていませんし、創造主の祝福を第七日目から第一日目に移すように、と私たちが招いていないことがおわかりいただけたと思います。

「パウロはいつものように、ユダヤ人の集まっているところへ入って行き、三回の安息日にわたって聖書を引用して論じ合った（使徒言行録一七章二節）、と記されています。パウロは、イエスと同じ習慣を持っていました。ルカによる福音書の記事を覚えておられるでしょうか？

さらに、新約聖書全体を通じて、キリストとその弟子たちの模範は、第七日目安息日が神の偉大な休みの日であることを示

ています。ルカによる福音書の記事を覚えておられるでしょうか？



「イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読

しようとしてお立ちになった」
（四章一六節）

神を礼拝することにおいて、イエスも、パウロも、新約聖書のすべてのクリスチャンも、みな同じ習慣を持っていました。

無知な時代が終わるときに
叫ばれるメッセージ

しかし、それでもまだ、あるクリスチャンはこう質問するかもしれませんね。

「結局、神が望んでおられるのは、七日間のうちの一日を用いて神を礼拝する、ということなのですよね？ 私はずっと日曜日に神を真心から礼拝してきました。いまさらそれを変えなくてはいけないのですか？」と。聖書には、私たちすべての人

彼らは神の律法に従って、週の第七日目に神を礼拝したのです。

使徒言行録の中には、パウロが週の第七日目に神を礼拝したという聖句が、八〇か所もあるのです！

間にとって良い知らせが記されています。

「神はこのような無知な時代を、大目に見てください。が、今はどこにいる人でも皆悔い改めるようにと、命じておられます」
（使徒言行録一七章三〇節）

神はご自分の子供たちが何を学び、何を学ばなかったかについて、よくご存知です。ですから

あなたの ルーツを心に!

ら神は、私たちの無知な時代、無知な過去を大目に見てくださいました。しかし、そのときは終わったのです! なぜでしょうか?

「それは、先にお選びになった一人の方によつて、この世を正しく裁く日をお決めになったからです。神はこの方を死者の中から復活させて、すべての人にそのことの確証をお与えになったのです」(同三二節)

死から復活されたイエスが、この地上へお帰りになられるからです。それゆえに、私たちの無知な時代は終わらなければなりませんのです。

いまや私たちは、ぐるっと回つて本シリーズの最初の部分に戻つて来ました。と言うのも、

これこそ、黙示録一四章の一人の天使が、大声で叫んでいた緊急を要する言葉そのものだからです。

「わたしはまた、別の天使が空高く飛ぶのを見た。この天使は、地上に住む人々、あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族に告げ知らせるために、永遠の福音を携えて来て、大声で言った。『神を畏れ、その栄光をたたえなさい。神の裁きの時が来たからである。天と地、海と水の源を創造した方を礼拝しなさい』」(同六、七節)

キリストがこの地球にお帰りになる前に、神は地上のすべての人々に、創造主なる神のもとへ立ち帰るようというメッセージを伝えておられるのです。「天と地、海と水の源を創造し

た方を礼拝しなさい」と。

本シリーズの中でたびたび読んだ言葉ですが、何となくつissäつき読んだばかりの感じがしませんか? それもそのはずです。十戒の第四条に、同じメッセージが含まれていたからです。

「安息日を心に留め、これを聖別せよ。……六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたから、主は安息日を祝福して聖別されたのである」(出エジプト記二〇章八、一一節)

このメッセージの一致は、一体何を意味しているのでしょうか? それは、イエス・キリストがこの地球にお帰りになる終末の時代に、創造主である神についての真理と、神の安息日についての良い知らせとが、もう一度、地

の果てから果てまで響き渡るの　だ、ということなのです。

決断を下すのはあなたです

墮落した天使の長ルシファーは、あらゆる恐るべき策略を用いて、私たち人類が愛に富む創造主の子供たちだというすばらしい真理を、根絶しようとしてきました。進化論、無神論、自然主義、世俗主義などは、こぞって創造主なる神についての真理に対して、有害な攻撃をしかけてきたのです。

しかし、このようなサタンの戦略を恐れる必要はありません。神から遣わされたもう一人の天使は、暗黒時代の地球に向かって大声で叫んでいます。

「地球人よ、目覚めよ。あなた方の王がお帰りになられる。

いま、あなたの創造主を礼拝しなさい。彼の安息日を心に留めなさい。彼の友情を求めなさい。彼はまもなくお帰りになられる！」

みなさん、最終時代のいまこのときに、私たちの創造主なる神を第七日安息日に礼拝することは、本当に重大な決断なのです！

ある人はこれまで何も知らなかったでしょう。神はそのことを大目に見てくださいました。しかしいまは、第七日目安息日が、神と私たちとの永遠の友情の中心にあることがわかったはずです。

ある人はこれまでに少ししか知らなかったでしょう。しかしいまは、神への親愛の情をあらわすことが、具体的には第七日を神の友情の安息日として受け入れることである、とわかったはずですよ。

またある人は、少しなら知っていたかもしれませんが。神はそのことを大目に見てくださいました。しかしいまは、もし私たちがイエスを自分の救い主として受け入れているならば、イエスを安息日の主としても受け入れることが極めて筋の通ったことだ、とわかったはずですよ。安息日が神の友情の中心にあるものだとわかったいま、だれが創造主に向かって、「この日を無視します」などと言えるでしょう。

- 1 タイタニック 次は私たちか？
- 2 スター・ウォーズ 反逆者はだれだ？!
- 3 過去の文明はなぜ崩壊したのか
- 4 十字架上で破れた2つの心臓
- 5 豹はまだらの皮を変えられるか？
- 6 ダーウィンのブラック・ボックス
- 7 創造主からの時間の贈り物
- 8 あなたのルーツを心に！
- 9 11番目のシナリオ——希望はあるのか？
- 10 新しい祈り方——救い主を見つめて



著者 Dwight Nelson (ドウワイト・ネルソン)

東京で宣教師の息子として生まれる。米国アンドリュース大学神学修士、同大学神学院より博士号を修得。現在アンドリュース大学パイオニア・メモリアル教会の主任牧師、説教の非常勤講師。著書多数。本稿の元になったNET98セミナー（衛星放送による世界規模伝道集会）講師。

翻訳 山地明（やまじ あきら） SDA都城キリスト教会牧師

校閲 文章工房・句読点

カウントダウンシリーズ 8
あなたのルーツを心に！

2000年2月15日 初版発行

セブンスデー・アドベンチスト教団教会活動部

〒190-0011 東京都立川市高松町3-21-8

電話 042-526-6822

FAX 042-526-6301

 永遠の友情の発見
セブンスデー・アドベンチスト教団